

# 思考力・判断力・表現力の育成にむけた社会科の授業づくり

## ～国語科で学習した言語活動を用いた指導方法の工夫～

平井 千恵

本研究は、平成 29 年度 3 月告示の学習指導要領で示されている資質・能力に示されてある「思考力・判断力・表現力」に着目し、社会科において子ども一人一人が思考・判断したことを表現するための手段として、国語科で既習した言語活動を生かす授業づくりを目的としたものである。

暗記教科とも言われる歴史学習を「時代を一文で表す（要約する）」ことにより、その時代に必要不可欠な要素を自ら吟味し、自らの言葉として表現する。このことにより、歴史学習が単なる暗記教科からイメージをもちその時代を自ら語ることができるものとなる。

また、自らの見方・考え方と他者の見方・考え方の共通点と相違点に気付き、それを認め合うことにより多角的・多面的な視野をもつことができる。

実践の結果、時代に対する子ども一人一人の見方・考え方が一文に表れ、共有し合うことで時代に対する考えの広がりが見えたとともに、歴史学習は考える学習だと捉えることができていた。

キーワード：思考力・判断力・表現力、言語活動の充実、歴史学習、国語科との関連

### 1. 研究の目的

平成 29 年 3 月告示の学習指導要領では育むべき資質・能力として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう人間性」の三要素が示され、それを各教科のものの見方・考え方を働かせながら養うとしている。

今年度の本校の研究テーマは「未来に生きて働く資質・能力の育成～探究的な学びとカリキュラム・デザイン～」である。本校では、学習指導要領に示されている三つの資質・能力等と総合的な学習における探究のプロセスを通して問題解決に取り組む資質・能力を「探究力」、問題解決や自己理解、他者理解等の目的に応じて、学習や行動を調整する資質・能力を「省察性」として研究を進めている。

本研究では、第 6 学年の社会科において本校の研究テーマである「探究力」と「省察性」の育成にむけ「思考力・判断力・表現力」に着目した。その理由は、歴史学習に対する子どものイメージである。子どもの中では歴史学習は暗記中心という「知識・理解」（何を学ぶか）のイメージが強い。そのため、歴史が好きな子どもと苦手な子どもとに分かれてしまう。本研究では、歴史を学ぶことが未来を担うためには必要であるという「知識・理解」だけではないと子どもが実感できるような歴史学習にしたいという考えから「思考力・判断力・表現力」（どのように学ぶか）に焦点をあてた社会科授業づくりを目的とする。

### 1. 1. 言語活動の充実

言語活動の充実に関する指導事例集（2011）では、近年の学力調査において我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題が見られるとし、各教科において国語科で培った能力を基本に、言語活動を充実させる必要があるとしている。また、教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項において社会科では国語科と関連を図りながら、知識・技能を活用し、必要な情報から読み取ったことを比較・関連付け・統合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深める学習の充実を図るとしている。

この「比較する」「関連付ける」「統合する」ことは、何が必要なのかを思考し判断することであり、思考力・判断力・表現力を育成するためには言語活動の充実は欠かせないものであると言える。

### 1. 2. 教科提案と歴史学習

では、第 6 学年社会科においては言語活動をどのように設定していくのか。本校では各教科に研究テーマがあり、それぞれに学びのプロセスを示している。社会科における学びのイメージは図 1 のとおりである。

しかし、第 6 学年の学習内容は歴史分野と公民分野の 2 つで構成されており、図 1 のプロセスに歴史学習を当てはめていくのは難しいと考えた。そこで、公民

分野の学習は図1のプロセスであり、歴史分野の学習は問題解決への土台であると考え、学びのプロセスを図2のように構想し、実践を行うこととする。

この問題解決への土台を作ることで、問題解決①及び②の過程に歴史学習が役立ち、社会参画の意識をもつ。つまり、社会科の目的である公民的資質の基礎を養うことにつながると考える。

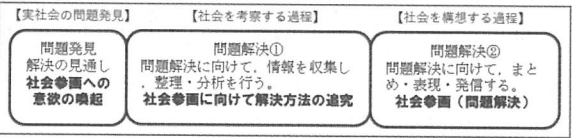


図1 社会科における探究的な学びのイメージ

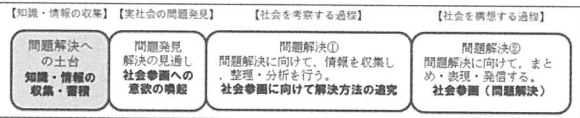


図2 歴史学習における探究的な学びのイメージ

### 1. 3. 歴史学習における「自分ごと」

社会科では「自分ごととして捉える、考える」ことが学習する上で重要であると言われる。

北(2015)は、社会のことがらを他人ごとではなく、自分ごととしてとらえることが重要であり、自分ごととしてとらえるとは自分(たち)は社会で働いている人々や社会の仕組みに支えられていること、自然環境からさまざまな影響を受けていることなどを理解することであり、さらに先人のさまざまな努力や業績のうねにいまの社会が成り立っているといった、歴史的な視点から社会を理解することも大切であると言う。

また、この自分ごととして捉えることで社会がわかり社会の問題や課題を解決しようとする意識である社会参画の基礎が養われると言う。

舩木(2015)は、「自分ごと」となる過程を構想し、「自分ごと」を「社会と関わっている、結びついていくという関係性を感じ、学習内容に対して当事者意識を持つこと」と定義し「自分ごと」と捉えた基準を「自分の立場から考えたこと」「自分の生活と関連付けて考えたこと」「自分にできることについて考えたこと」として実践研究を行っている。

「自分ごと」として捉えることが、思考・判断することであり、それを表現する方法については数多実践されている。本研究では、舩木(2015)の定義と基準を用いて思考力・判断力・表現力を養うための方法について研究を進める。

## 2. 研究仮説

適切な言語活動を設定することで、一面的に捉えていた時代の各事象を再構築し、自分ごととして歴史を捉えることができるであろう。

第6学年では、国語科単元で「学級討論会をしよう」として、相手の意図を捉えて聞いたり、根拠をもって主張したりする学習、「意見文を書こう」では反論を予想した主張を考える学習、また、具体を抽象にまとめたり、文章を一文にまとめる学習を行ったりしている。これらの言語活動は国語科だけではなく、各教科、生活に汎用できるものである。そこで社会科においても、これらの言語活動を設定することで、話す・聞く・まとめる力を働かせ、社会科のねらいに迫ることができると考えた。

う」として、相手の意図を捉えて聞いたり、根拠をもって主張したりする学習、「意見文を書こう」では反論を予想した主張を考える学習、また、具体を抽象にまとめたり、文章を一文にまとめる学習を行ったりしている。これらの言語活動は国語科だけではなく、各教科、生活に汎用できるものである。そこで社会科においても、これらの言語活動を設定することで、話す・聞く・まとめる力を働かせ、社会科のねらいに迫ることができると考えた。

## 3. 研究方法

思考力・判断力・表現力を養うため、以下の手順で言語活動を設定し研究を進める。

- ①時代の事象や人物の働きを捉える。
- ②各事象や人物の働きをプラスマイナスに分ける。
- ③時代を一文で表す。(言語活動)

(1) 時代の事象や人物の働きを捉える。

教科書の見開き2ページを基準に、資料を読み取りながら各事象や人物の働き(用語)を押さえ、その学習で考えたことを振り返りとして書いておく。

(2) 各事象や人物の働きをプラスマイナスに分ける。

桂は2016年説明文の授業の中で、プラスマイナス読みという一文ごとにその内容がプラスなのかマイナスなのかを判断させる読み方の実践を行った。事象について思考し、判断するためには、材料(視点)が必要である。その視点の一つとしてプラスとマイナスを設定する。このことにより、事象についてどの立場から考えるかによって違いが明らかになり、多面的に考えることができると考える。

(3) 時代を一文で表す。

白石(2011)は物語を抽象化するための一文で書く活動を「物語文を読む10の観点」の中で提唱している。これは物語の要点を用いて一文にまとめる活動であり、一文の中に物語の内容が凝縮される。この方法を歴史学習に応用し、時代を一文にまとめる活動を行うことで、学習した事象や人物の働きを再度見直し、事象や人物の働きを比較・関連付け・統合することにより時代を自分の言葉で表すことができると考える。

## 4. 授業の実践と考察

本項では、第6学年、単元名「国力の充実をめざす日本と国際社会」のまとめの時間である9時間目を中心に研究方法の実践について述べる。

育みたい探究力		育みたい省察性	
事象について多面的に考える力 (思考力・判断力・表現力)		学習全体をとおして考える力 (思考力・判断力・表現力を支える省察性)	
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
評価 規 準	資料を調べ、日本の近代化や条約改正、欧米諸国との関係について理解している。	この時代の歴史的な事象を具体的に調べ、人々の働きを考えることで、それらについて考えたことを表現している。	新政府が進めた新しい国づくりに活躍した人物や事象について関心をもち、意欲的に調べ、考えようとしている。

単元計画（全10時間） 本時 9/10

第1次

- 1時 西南戦争後、日本はどのように変わっていくのかについて学習の見通しをもつ。(思・判・表)
- 2,3時 自由民権運動の高まりから、政府は憲法を制定し立憲政治を確立したことや、国民の政治参加の面では不十分であったことを捉える。(知・技)
- 4時 政府が条約改正に努め、欧米諸国との対等な関係の構築に努力したことを読みとる。(知・技)
- 5時 日清・日露戦争を経て日本の国際的地位が向上し、朝鮮半島に勢力を拡大したことを理解する。(知・技)
- 6時 韓国併合前後に日本がとった政策やそれに対する抵抗運動を調べ、朝鮮の人々の思いを考えることができる。(知・技)
- 7時 日本の産業や暮らしの様子、世界で活躍した日本人などについて調べ、国力の充実との関わりを捉える。(知・技)
- 8時 明治・大正の人々の暮らしについて当時の人々が自由と権利を求めて立ち上がったわけについて考える。(思・判・表)

第2次

- 9時 日本の国力が充実していったことについて自分の考えをもつ。(思・判・表)
- 10時 学習した内容と現在の生活を比べ、自分の考えをもつ。(思・判・表)

(1)各事象や人物の働きをプラスマイナスに分ける。  
発問「これはプラスですか。マイナスですか。」

(明治・大正時代に起こった事象について)

- ①教師：国会開設。
- ②子ども：プラス。
- ③教師：女性の職場進出。
- ④子ども：プラス。
- ⑤教師：全国水平社の創設。
- ⑥子ども：プラス。
- ⑦教師：差別されていた人々がいた。
- ⑧子ども：マイナス。
- ⑨教師：清からの賠償金。
- ⑩子ども：プラス。
- ⑪子ども：マイナス。
- ⑫子ども：え。
- ⑬たまき：日本としてはプラス。
- ⑭たまき：人としてどうかと思う。
- ⑮教師：日露戦争で活躍。
- ⑯たまき：人としてどうかかわらん。
- ⑰教師：なになら。
- ⑱たまき：国としてならプラス。

このように、①から⑧までは子どもたちは声をそろえてプラスかマイナスかを判断しており、考えがそろっている。しかし⑨の発問に対しそれぞれの考えに違いがあることに気付き立ち止まっている。そして⑬⑭の発言のように「日本として」「人として」と立場の違いでプラスかマイナスかは違ってくるという見方に気付いた。

他単元の授業においても同様に、プラスマイナスで問うことにより、時に「プラマイや」という意見が出るようになり、その理由について立ち止まり全体で考

える視点となっていた。

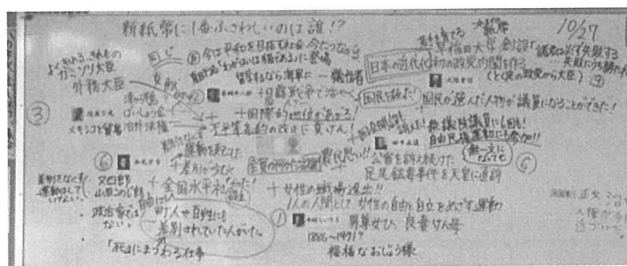


図3 プラスマイナスを書きこんだ本時の板書（一部）

(2)「明治・大正」時代を一文で表す。

(1)を終えた後、「色々なことがあった明治・大正時代を一文で表しましょう。」と指示し、活動に入った。子どもたちが考えた一文は以下のとおりである。

ゆりか 政治や人権が今によりいっそう近づいた時代。  
りょう 女性などの地位が男性と一緒にになった時代。  
みきこ 公害や差別、不平等な条約などマイナスのことをプラスにしようと人々が立ち上がった時代。  
りみ 日露戦争や差別をなくす運動など悪いことがあった時代。

ゆか 差別をなくしたりする運動や、国民が選んだ人物が議員になるなど、国民にとって良いことが増えた時代。

ゆづる 公害や戦争など、人々が苦しんだ時代。

このみ 平塚や西光など、差別をなくす運動が広まった時代。

はる 大きな運動や不平等条約の改正など、色々なことが変わった時代。

りく 重信さんや宗光さんなど、いろんな人が運動を起こして人々が助かり社会が大きく変わった時代。

さり 平塚らいてうや西光万吉、田中正造などが国民のためにいろいろ運動をおこし平和にした時代。

はるな 田中正造や西光万吉など、国を直そうとしている人がいろんなことをした時代。

たけし 日本が欧米を見習って技術が江戸時代に比べて大きく進歩した時代。

まさ 政府や人々が近代化をめざした時代。

こころ 大隈重信や田中正造などの人物が活躍し、日本の政治が大きくいい方向に変わった時代。

ゆうあ 差別が少なくなったり、初の政党内閣をつくったり今までの社会が大きく変わった時代。

まさき 戦争や差別など、いろんな人が苦しんだ時代。

こうや 自由民権運動や水平社など、政府に反対する運動が多かった時代。

ちえ 位の低い人も高い人も国民や国のために意見を言い、前よりよくなった時代。

ゆずな 国民のために平和にしようとするなど、人々が運動や訴えをおこした時代。

このように、明治・大正に起こった事象や人物の働きを子ども一人一人が比較し関係づけながら統合し自分なりの言葉で時代を表していることがわかる。

## 5. 成果と課題

本研究をとおして、プラスマイナスで分けるという視点を与えることで、自分の見方で事象や人物の働きを判断することができた。また、互いの見方や考え方の違いが見え、立場によって見え方が変わってくることを実感することができていた。同様に、時代を一文で表す言語活動は、自分のものの見方・考え方が表れ、自分なりの言葉で表現していることから自分ごととして時代を捉えていると言える。つまり、時代を一文にまとめるという活動は、学習した内容について思考・判断したことを表現できる言語活動であると言える。

また、この成果物を共有することで、友達とは逆であったり違う視点であったり、より広い視点で見たり考えたりしていることに気付くことができるよさがあると考えている。

一方、本研究での課題は、現地学習をしていないことである。そのため、子どもが体験し自分ごととして考えられたことがほとんどなかった。また、本校の社会科研究の特色である地域教材の開発には至らず、子どもたちに身近な教材を提供することはできなかったため、教材に対する親近感や郷土に愛着をもち学習に取り組むことはできなかった。歴史学習は、過去に起こった事象や先人の業績について学習するため、実際に体験することはできない。今後は疑似体験等を踏まえ、地域の歴史を身近に感じながら社会科の目標や指導事項を達成できる教材開発について研鑽を積んでいきたい。

## 6. 今後の取組み

本研究では社会科における思考力・判断力・表現力の育成について言語活動の実践を進めてきた。時代を一文で表すという言語活動を設定しながら歴史学習を進め歴史分野の学習である図2の問題発見の土台の過程を終えた。学習を終えるとき、これまでの時代を振り返り、まとめとして歴史を学ぶ意味と歴史を学習した感想を書かせた。

こころ 未来を見るためだと思う。なぜなら昔のことを振り返ってこの時代の人はいこうしてた。とか、この時代にこの建物が造られたなどが見られる。そしてそれを見てあこがれの人を見つけたり、今までの人を見て悪いと感じたことを今からの未来に生かそうと思ったりすることが大切だと思う。

ゆづる 日本の歴史を知るため(世界との交流、どのようにして今につながったか)。失敗(例:戦争)を繰り返さないように、これからどんなことをしたらいいかを考えるため。たくさんの人の苦労と工夫によって今があることがわかった。だからこれからもそのことを思い出して、よりよい未来につながるように努力したい。

はる 歴史を学ぶ理由は、今までの人がおかした失敗

や偉業を学んでこれからに生かしていくためだと思います。ぼくは今まで歴史を学んでみて「歴史は知っているだけで役に立つな」と思いました。なぜなら日常生活で何かを選ぶときに役立ったからです。

れおま 今の日本で問題になっている少子高齢化や地球レベルなどの問題を解決するために、昔の人たちの考え方を知って、問題を解決するためだと思う。

たまき 昔の人物、事件から教訓や失敗を繰り返さないためでもあり、昔の人の考えを知って、どういうことが大事なのか、どういうものをしてはいけないのかと、考え方を育てるためという道徳的なことを学ぶためでもあると思う。

こうや どんなことが起こったのか、どんな人物が動いたなどを学べば今の平和がみえてくるし、昔の日本はどんな風だったのか、というのが学べて自分も考えをもてて、一歩前に進めると思うから学ぶ意味があると思います。学んでみて、歴史を学ぶと今につながるものがたくさんあって、人々の努力もあったし、そこには平和を願う人もたくさんいて、今、平和な日本をもっと大事にしていきたいです。

ゆうあ 私が考える「歴史を学ぶ意味」とは、これまでの出来事やそれにおこした行動などについて考えたり話し合ったりして、これからの社会をつくっていく立場の私達の参考にするためだと思います。今までそれを意識して、授業をうけてきましたが、2学期の今でもその考えは変わりません。社会は苦手ですが、これからの社会のためにと考えてがんばってきました。この考えをもってこれからの授業をうけていきたいと思っています。

上記のような考えをもつ子どもが多く、歴史学習が図2の問題解決の土台となっていると言える。

この意識をもち公民分野の学習に進むことで、現在問題となっている事象を自分ごととして捉え、考えることができるであろう。そのための歴史学習であることを再認識し、公民分野の学習につなげたい。

## 参考文献

- 白石範孝(2011)「白石範孝の国語授業の教科書」東洋館出版社
- 言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】(2011)教育出版株式会社
- 北俊夫(2015)「ぶんけい教育ほっとにゆーす 教育の小径 No.83 9月号」ぶんけい
- 船木洋介(2015)「社会的な事象を「自分ごと」として捉えさせる社会科授業づくり-知識の構造図の作成と話し合いに重点を置いた単元構成を通して-」和歌山県教育センター学びの丘研修員報告書(2015)-5
- 澤井陽介(2015)「澤井陽介の社会科の授業デザイン」東洋館出版社
- 小学校学習指導要領(2016)文部科学省